

総務厚生常任委員会

■国民健康保険条例を改正

平成21年1月から産科医療保障制度の創設により、出産育児一時金が3万円加算されることとなる条例を可決しました。 35万円⇒38万円

■琴引フォレストパーク貸付金元利収入を減額補正

当初予算では(株)琴引フォレストパークから2千869万7千円の返済が見込まれていたが、(株)琴引フォレストパーク解散に伴って1千936万3千円の返済にとどまることから、その差額933万4千円の減額補正を可決しました。

■携帯不感地帯の解消対策費の増額補正

小田・真木地区は伝送路の整備を本町が行い、谷地区は伝送路と通信鉄塔等を本町が整備することにより、携帯電話の不感地帯の解消が図れるため、1億2千950万円の増額補正を可決しました。

また、都加賀地区は通信事業者の自主事業で整備が行われます。

■医療用画像システム等の整備費を増額補正

医療用画像システム(デジタル画像の保存や配信)や酸素濃縮装置の整備などに1千220万7千円の増額補正を可決しました。

このシステムにより飯南病院から他病院に紹介する場合、患者画像情報をCD-Rなどの媒体で提供できます。

教育経済常任委員会

■土地開発公社の解散を可決

志津見ダムが完成間近となり、ダム関連事業による大規模土地開発が縮小するため、公社継続の意味がなくなる。土地の取得に起債の充当が認められることとなったことや、小規模な用地の取得は基金で賄えることにより可決しました。

■頓原中学校体育館の耐震大規模改修費の増額補正

頓原中学校体育館の耐震及び大規模改修で、壁・床・屋根等をすべて剥ぎ取り、骨材補強を行うものです。先の、中国四川省の地震災害による学校施設の倒壊事案もあり、学校への投資は急を要すると判断し、1億9千85万円の増額補正を可決しました。



町道昇格調査の現地視察

■陳情第6号を可決

井戸谷地区旧保育所入口より長徳寺までの現道を、町道昇格及び除雪車進入のための拡幅工事の陳情については、現地の確認を行い、町が管理すべきと判断しました。

土地の無償提供も約束されており、採択しました。



携帯不感地帯の真木集落

研修会場の「木魂館」



議員視察 研修報告 熊本県小国町

地域資源のもつ魅力九州ツーリズム大学で受講して

熊本県小国町は、九州ツーリズム大学の中核をなす町で、細菌学者の北里柴三郎が生まれた地でもあります。

この町で始まった「ツーリズム」は年間宿泊者30万人、入込み総数では110万人にも達する成長を遂げており、人口85000人の町の大きな魅力となっています。

飯南町は平成19年3月に森林セラピー基地として指定され、グリーンツーリズムへの第一歩を踏み出したところです。この町の取組を学び、「本町の特徴を活かしたツーリズムのスタイルを見出す」目的で研修に臨みました。

都市住民には潜在的に田舎暮らしへの憧れがあり、これは新規就農と異なる農的暮らしへの憧れであり、生活を立てる手段が大きな障害となります。

小国町では20代後半のUターン者が商店街の中へ、自分が行きたいと思っているオシャレな飲食店を開き、地元の若者の利用が進みました。これをきっかけに、若者向けの店が増えました。若者が農村で生活するためには仕事おこしが必要で、地域に埋も



大分県小国町ツーリズム大学を視察・研修

れているものの掘り起こしにより、小さなビジネスを作ることが可能です。

ツーリズム大学の発足により、商家民泊や農家民泊が始まり、地元の飲み屋で酒を飲み、交流が広まりました。おぐに自然の学校は地元の子供

たちに環境、自然、農業等を教育する目的で作られました。都市から企業の労組やスポーツクラブの体験教室を受け入れ始め、今では北九州の8校の中学校を受け入れ、文化祭に農産物の直売を行うなど、より地域に密着した交流が行われています。

これらの活動は決してボランティアで行われているものでなく、自分たちの持っているものに価値を見出し、お金を払ってもらおう仕組みを作ること、地域の経済に良い影響を及ぼしています。

本町では里山コミッションが都市と地域をつなぐ役割を持ち、発足したところですが、都市住民の求めているものと、地域資源の持つ魅力をつまみつけて、経済活動となること期待されています。今後交流が一層拡大するよう、支援の強化と相互協力の推進を図るべきと考えました。

